

1-2 日本思想史

研究・教育活動の概要と特色

日本思想学は諸外国や諸民族との対比において、「日本的」なものの考え方や価値観の形成過程とその独自性を、歴史的な視点から客観的に明らかにしようとする学問です。この列島上で展開された、古代から現代までのさまざまな思想的営みを広く明らかにすることによって、人間とは何か、「日本人」とは何か、といった問題を探っていくことを目的としています。

東北大学の日本思想史研究室は、博士後期課程までを持つこの分野では国立大学法人中の唯一の研究室として、大正12年の開設以来、一貫して日本思想史研究界の中心的役割を担い、多数の優れた研究者を国内外に送りだしてきました。教育界などでも多くの修了生が活躍しています。

本研究室では授業のほかに、定例研究界や史料講読会の開催、学術雑誌の刊行など、大学院生を主体とする活発な研究活動が行われています。また教員が毎年国際学会で発表するなど、国内外の大学・研究機関・研究者との学問的・人的交流も、年々盛んになっています。

I 組織

1 教員数 (2008年 4月現在)

教授： 1
准教授： 1
講師： 0
助教： 1
教授：佐藤弘夫
准教授：片岡 龍
助教：大川 真
助教：桐原健真 (コンピュータ室)

2 在学生数 (2008年 4月現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博 士 前期	大学院博 士 後期	大学院 研究生	科目等履修 生
32	1	9	13	2	2

3 修了生・卒業生数（2004～2008年度）

年度	学部卒業者	大学院博士課程前期修了者	大学院博士課程後期修了者 (満期退学者)	博士学位授与者
04	13	5	0	0
05	5	3	2	1
06	7	4	1	1
07	8	5	0	1
08				
計	33	17	3	3

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	0	0	0
05	1	1	2
06	1	1	2
07	2	1	3
08			
計	4	3	7

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

昆野伸幸、2005年度、『〈皇国史観〉研究序説』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、助教授・安達宏昭
若生政希、2005年度、『安藤昌益からみえる日本近世』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・大藤修、教授・仁平道明
岸田有希子、2006年度、『日本中世における臨済禅の思想的展開』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・三浦秀一、助教授・片岡龍
渡辺和靖、2006年度、『保田與重郎研究 一九三〇年代思想史の構想』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、助教授・片岡龍
先崎彰容、2007年度、『個人主義のゆくえ — 福沢諭吉、高山樗牛、和辻哲郎にみる』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・佐藤伸宏、助教授・片岡龍
佐久間正、2007年度、『徳川日本の思想形成と儒教』

審査委員：教授・佐藤弘夫（主査）、教授・大藤修、准教授・片岡龍
大川真、2007年度、『王権・言葉・心をめぐる近世政治思想史研究』

審査委員：教授佐藤弘夫（主査）・教授大藤修・准教授片岡龍

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	3	4	0	0	7
05	3	3	0	2	8
06	2	1	0	0	3
07	3	0	0	0	3
08	3	2	0	0	5
計	14	10	0	2	26

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	13	10	0	23
05	2	4	10	0	16
06	0	5	10	0	15
07	0	4	10	0	14
08	2	1	10	0	13
計	4	27	50	0	81

(研究会は概数)

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

石澤理如「民法典論争とその時代—民法典論争を見直す」『日本思想史研究』第36号、2004年.

石澤理如「近代法思想へのまなざし—栗本鋤雲『暁窓追録』を中心に」『文化』第69巻第1・2号、2005年.

鈴木啓孝「司法省法学校「放廢社」にみる個人と結社」『日本思想史学』36号、2004年.

鈴木啓孝「「旧藩」の超越—明治10年代の陸羯南を題材として」『歴史』105輯、2006年4月.

鈴木啓孝「青年原敬における明治啓蒙主義の内面化—「士族の超越」を中心に」『日本歴史』2007年.

盧 奇香「幕末における福沢諭吉の西洋受容—幕臣意識を中心に」『日本文化学報』、2005年.

森川多聞「田中耕太郎の改宗—内村との訣別と「他者」」『日本思想史研究』38号、2006年。

中嶋英介「大道寺友山の士道論」『文化』（東北大学文学会）第71巻第1・2号（掲載予定）、2008年。

岡安儀之「「平民」民権家・福地源一郎の「国民」形成論—士族平民民権論争を中心に—」『歴史』第110輯、東北史学会、2008年4月。

ジョナサン・モリス、和久井洋子、和田有希子訳「【翻訳】ベルナール・フォーレル「禅宗史の再考」」『日本思想史研究』39号、2007年3月。

森新之介「九条兼実の反淳素思想」、『日本思想史学』40号、2008年。

森新之介「摂関院政期貴族社会における末代観」、『日本思想史研究』40号、2008年。

（2）口頭発表

和田有希子「栄西と『宗鏡録』」日本思想史学会2004年度大会、2004年10月、京都大学。

石澤理如「近代法思想へのまなざし—栗本鋤雲『暁窓追録』を中心に—」日本思想史学会2004年度大会、京都大学、2004年。

石澤理如「幕末期の海防論と昌平鬘」近世史サマーセミナー、松島かんぼの宿、2007年7月。

石澤理如「幕末期の海防論と栗本鋤雲」日本思想史学会07年度大会、長崎大学、2007年10月。

鈴木啓孝「読者から記者へ—原敬の思想形成」第26回書物・出版と社会変容研究会、2006年7月。

鈴木啓孝「明治14年、原敬の「東北」周遊—「アイノ人」との出会いを中心に—」日本思想史学会2006年度大会、2006年10月。

中嶋英介「『武道初心集』の史的展開—松代版出版を中心に—」日本思想史学会2004年度大会、2004年10月、京都大学。

中嶋英介「大道寺友山の家康像」日本文芸研究会大会、2006年6月。

中嶋英介「大道寺友山の士道論」日本思想史学会大会、2006年10月。

中嶋英介「士道論再考—山鹿素行を中心に—」日本思想史学会大会 2007年10月。

中嶋英介「近世士道論における軍記物の諸相—山鹿素行を中心に—」日本文芸研究会 2008年6月。

Eisuke Nakazima “An aspect of Bushido; argument in the Tokugawa period;The perspective of Yamaga Soko”;Hanyang-UBC Conference 2008年6月,The University of British Columbia(Canada)

- 盧 奇香「幕末における福沢諭吉の西洋受容-幕臣意識を中心に」日本思想史学会2004年度大会、2004年10月、京都大学.
- 盧 奇香「幕末における福沢諭吉の国際関係認識-『西洋事情』を中心に」韓国日本文化学会大会、2005年7月.
- 盧 奇香「『西洋事情』『学問のすすめ』『文明論之概略』における思想の連続・非連続について-西洋観を中心に」韓国日本文化学会大会、2005年10月.
- 鈴木三恵「諏訪信仰における殺生正当化の思想展開-『信州諏訪大明神御本地由来記』を中心に-」日本思想史学会2004年度大会、2004年10月、京都大学.
- 岡安儀之「新聞の政論化と「論壇」の誕生——民撰議院論争から士族・平民民権論争へ」2007年度東北史学会大会、東北大学、2007年9月.
- 岡安儀之「「論壇」の成立—明治8年の大論争」日本思想史学会2007年度大会、長崎大学、2007年10月.
- 岡安儀之「福地源一郎における旧幕論の射程—その歴史認識を中心に—」2008年度明治維新史学会研究例会、2008年5月、於明治大学。
- 岡安儀之「福地源一郎における旧幕論の射程」明治維新史学会2008年度第38回大会、2008年6月、於青山学院大学。
- ジョナサン・モリス “Joint Postgraduate Conference, Department of Theology and Religious Studies”, University of Bristol、June 2005 "Do monks make merit according to the Paali Canon?"

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2004年度 SPD、1名採用。

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2005年度 大学院 1名 先崎彰容、大学院、E.H.E.S.S (フランス)

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	1	2	3
05	3	2	5
06	8	3	11
07	4	3	7
08	3	5	8
計	19	15	34

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	0	0
05	1	0	1
06	1	0	1
07	2	0	2
08	3	0	3
計	7	0	7

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

昆野伸幸 東北大学大学院文学研究科助手 2004年度
桐原健真 東北大学大学院文学研究科助手 2004年度
黒崎史朋子 大阪大学工学研究科准教授 2006年度
大川真 東北大学大学院文学研究科助教 2008年度
森川多聞 韓国・東明情報大学校ホテル経営学科専任講師 2008年度
鈴木啓孝 韓国・東明情報大学校ホテル経営学科専任講師 2008年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2004年度 高教員1、新聞社1
2005年度 高教員1
2006年度 高教員1
2007年度 高教員1、中教員1
2008年度 出版社1

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

2005年度 客員研究員 祝 平一（台湾中央研究院副研究員）

10 刊行物

『日本思想史研究』（年刊）

『年報日本思想史』（年刊）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

日韓共同シンポジウム「18-19 C東アジア思想空間の再発見」（主催）2007年8月31日～9月2日。

日本思想史学会事務局、2008年10月～。

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2004年度

日本思想史研究会月例会 8回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「時代の閉塞感」

2005年度

日本思想史研究会月例会 7回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「「偉人」観」

2006年度

日本思想史研究会月例会 8回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「テーマ思想史からみた「教育」—死生観の「教育」を焦点に」

2007年度

日本思想史研究会月例会 8回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「知の伝達」

2008年度

日本思想史研究会月例会 8回開催

日本思想史夏季セミナー テーマ「「古典」を考える」

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

日本思想史専攻分野は、2008年4月1日現在、学部生32名・大学院生22名・研究生等10名が所属しており、留学生も7か国から11名を受入れている。教員一人当たりの学生数としては、文学研究科の中でもトップを争う位置にある。

大学院入試において本専攻分野を志願するものはきわめて多く、ここ5年間は毎年前期課程・後期課程を合計して、専攻分野の定員のほぼ3倍に当たる8～9名の大学院生を受入れている。他大学からの志願者の割合がきわめて多いことも本専攻分野の特色であり、現在在籍する大学院生の7割以上が東北大学以外の出身である。

東北大学の日本思想史研究室は、日本における思想史研究の草分けともいえる古い伝統を持つが、その伝統に安住することなく、国内はもとより国際的な研究センターの役割を果たすべく、研究・教育のレベルアップを図ってきた。

2007年8月31・9月1日の両日には、本研究室の主催により、韓国からの出席者40名を含む国内外から100名以上の研究者の参加をえて、日韓共同国際シンポジウム「18—19 C東アジア思想空間」を成功裏に開催することができた。2日には50名が参加して、平泉方面への見学旅行が行われた。

本専攻分野では授業の他に、大学院生の主催する数多くの自主的な読書会（史料講読会）がもたれている。本専攻分野の大学院生・OBが中心となって「日本思想史研究会」が結成されているが、同研究会は毎月第3土曜日に月例の公開研究発表会を開催し、大学院生や東北大学内外の研究者が発表を行っている。また、同研究会は毎年夏に1泊2日で研究会形式の合宿（夏季セミナー）を実施しており、2008年8月に行われた同セミナーでは、東北大学以外の多くの大学の大学院生・教員を含む45名が参加し、活発な討論を繰り広げた。

大学院生には、日本思想史学会をはじめとする全国学会での発表を積極的に勧めている。従来あった研究室の雑誌『日本思想史研究』に加えて、新たに『年報日本思想史』を刊行し、院生の研究発表の場を拡げる努力を行っている。また定評ある全国学会誌への投稿を奨励しており、『日本思想史学』『日本歴史』『宗教研究』『日本史研究』『仏教史学研究』『歴史』『歴史評論』など、当該分野でよく読まれている雑誌に毎年論文が採用されている。

すでに教員は毎年海外の国際学会での発表を実践し、国際的な研究者のネットワーク作りを推進しているが、学生にも海外への研究留学を体験してもらい、それを生かしたスケールの大きな研究者の育成を目指している。ここ4年間では大学院在学中の学生1名がフランスに、大学院OB2名がアメリカに留学している。今後アジアも含めて、学生の海外体験の機会をいっそう拡げていきたいと考えている。

2005年4月には、教員佐藤弘夫が編集代表となり、本専攻分野のOBを中心とする研究者が主体となって、『日本思想史概説』（ミネルヴァ書房）が刊行された。この書ははじめての本格的な日本思想史の通史として国内外の注目を集め、現在韓国語・中

国語への翻訳の準備が進められている。また 2008 年 3 月には、教員片岡龍が共同編集を務め、本専攻分野のOB 6 名の研究者を執筆陣に含む『日本思想史ハンドブック』（新書館）が刊行され、現在韓国語への翻訳の準備が進められている。

Ⅲ 教員の研究活動（2004～2008年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

- 佐藤弘夫「中世の宗教と偽書の簇生」『別冊歴史読本』77号、2004年。
- 佐藤弘夫「板碑の造立とその思想」『東北中世史の研究』下巻、高志書院、2005年。
- 佐藤弘夫「偽書から見た中世」『中世の仏教』青史出版、2005年。
- 佐藤弘夫「神仏習合と神祇不拝」『日本史研究』511号、2005年。
- 佐藤弘夫「日本中世のコスモロジーと道教の神々」『アジア遊学』3号、2005年。
- 佐藤弘夫「天皇の宗教的権威・再考」『日本史の方法』3号、2006年。
- 佐藤弘夫「死者の行方」『学士会会報』859号、2006年。
- 佐藤弘夫「霊場—その成立と変貌」『中世の聖地・霊場』高志書院、2006年。
- 佐藤弘夫「偽書をつくる人々」『現代のエスプリ』481号、2007年。
- 佐藤弘夫「専修念仏と神祇不拝—なぜ念仏は弾圧されたのか」『真宗教学研究』28号、2007年。
- 佐藤弘夫「日本宗教の多面的・多角的解明に向けて—仏教史の立場から」『日本宗教文化史研究』11号、2007年。
- 佐藤弘夫「「神仏習合」論の形成の史的背景」『宗教研究』353号、2007年。
- 佐藤弘夫「平家物語における死と救済」『国文学』52-15号、2008年。
- 佐藤弘夫「網野史学における神と天皇」『大航海』65号2008年。
- 佐藤弘夫「天皇の宗教的権威・再考」『古代日本の構造と原理』青木書店、2008年。
- 佐藤弘夫「板碑を通してみる中世東国の宗教世界」『日本仏教総合研究』6号、2008年。
- 佐藤弘夫「アラヒトガミの系譜」『季刊日本思想史学』73号、2008年。
- 片岡龍「中江藤樹と「朱子学」試論—明末清初の思想と日本儒学について—」慶尚大学校南冥学研究所『南冥学研究』18、2004年。
- 片岡龍「朴奎泰「ハヌル(天)・異端・地図の知」コメント」『季刊日本思想史』66、2004年。
- 片岡龍「十七世紀 東亜細亜 儒学の潮流」『霞谷と江華陽明学派』2005年。
- 片岡龍「江戸儒学研究の課題」『近世儒学研究の方法と課題』汲古書院、2006年。

- 片岡龍「近世儒教研究史（70年代後半以降）」『日本思想史学』38、2006年。
- 片岡龍「人文学のゆくえをめぐる随想二題-東アジアの思想研究」『中国学への提言—外から見た日本の中国学研究—』日本中国学会、2007年。
- 片岡龍「儒教に対する使命感と諦念」『茶山学』11、2007年。
- 片岡龍「思想史学は現代的問題に寄与できるか？」『年報日本思想史』6、2007年。
- 片岡龍「伊藤仁斎の『孟子』論」『日本漢学国際学術検討会予稿集』2008年。
- 片岡龍「朱子学派・古学派の知的教養としての側面」『儒教の前近代性・近代性・脱近代性（1）』、2008年。
- 片岡龍「朱子学からの転換」『東アジアの政治伝統と民族主義：過去・現在・未来』、2008年。
- 片岡龍「目に見えないものへの想像力」『韓・日思想史共同シンポジウム予稿集』2008年。
- 片岡龍「抽象的情熱のポンプ」『大航海』67、2008年。
- 大川真「新井白石の鬼神論再考」『日本歴史』674号、日本歴史学会、2004年7月、36～51頁
- 大川真「伊兵衛殺人事件考-新井白石の君臣観-」『日本史研究』524号、日本史研究会、2006年4月、30～51頁。
- 大川真「叫ばれる正名-統一的国家イデオロギーの成立-」『歴史』108輯、東北史学会、2007年4月、78～100頁。
- 大川真「頼山陽における政治なるもの」『日本思想史研究』39号、東北大学大学院文学研究科日本思想史研究室、2007年3月、15～33頁。
- 大川真「後期水戸学における思想的転回-会沢正志斎の思想を中心に-」『日本思想史学』39号、日本思想史学会、ぺりかん社、2007年9月、112～128頁。
- 桐原健真「東方君子国の落日——『新論』的世界観とその終焉」明治維新史学会『明治維新史研究』第3号、2006年、1～15頁。
- 桐原健真「論争の書としての『講孟余話』」『歴史評論』645号、2004年。
- 桐原健真「『新論』的世界観の構造とその思想史的背景」茨城県歴史館『茨城県史研究』第91号、2007年、68～84頁。

1-2 著書・編著

- 佐藤弘夫『週刊朝日百科 仏教を歩く 日蓮』（共著）朝日新聞社、2003年。
- 佐藤弘夫『霊場の思想』吉川弘文館、193頁、2003年。
- 佐藤弘夫『日蓮』ミネルヴァ書房、342頁、2003年。
- 佐藤弘夫『日本仏教 34の鍵』（共編）春秋社、299頁、2003年。

- 佐藤弘夫『日本仏教の射程 思想史的アプローチ』（共著）人文書院、289頁、2003年。
- 佐藤弘夫『概説日本思想史』（編著）ミネルヴァ書房、354頁、2005年。
- 佐藤弘夫『起請文の精神史』講談社選書メチエ、210頁、2006年4月。
- 佐藤弘夫『神国日本』ちくま新書、232頁、2006年4月。
- 佐藤弘夫『死者のゆくえ』岩田書院、249頁、2008年3月。
- 佐藤弘夫『立正安国論 全訳注』講談社学術文庫、190頁、2008年6月。
- 片岡龍『近世儒学研究の方法と課題』（共著）汲古書院、113～127頁、2006年2月。
- 片岡龍（苅部直と共編）『日本思想史ハンドブック』新書館、2008年3月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 佐藤弘夫 書評／脇田晴子著『天皇と中世文化』中国新聞 7/20 他、2003年。
- 佐藤弘夫 書評／今谷明『籤引き将軍足利義教』共同通信配信各紙、2003年。
- 佐藤弘夫「カミとヒトの精神史」「寺社勢力」「神・仏・王権の中世」「アマテラスの変貌」『日本史文献辞典』弘文堂、2003年。
- 佐藤弘夫 インタビュー「中世的コスモロジーの中で見えてくる「神祇不拝」の意味」『真宗』2004年2月号、2004年。
- 佐藤弘夫「聖と俗」「仏教と国家」『歴史学事典』12「王と国家」弘文堂、2005年。
- 佐藤弘夫「起請文」『人文科学ハンドブック』東北大学出版会、2005年。
- 佐藤弘夫 書評／高木昭作著『将軍権力と天皇』『歴史評論』658号、2005年。
- 佐藤弘夫 書評／末木文美士著『近代日本の思想・再考』I・II『思想』972号、2005年。
- 佐藤弘夫 書評／繁田信一著『殴り合う貴族たち』共同通信配信各紙、2005年。
- 佐藤弘夫「日蓮」『名僧たちの教え』朝日選書、2005年。
- 佐藤弘夫 書評／佐々木馨著『日本中世思想の基調』図書新聞 2765号、2006年3月。
- 佐藤弘夫 書評／鍛代俊雄『神国思想の系譜』週間読書人、2006年7月。
- 佐藤弘夫 書評／武澤秀一『法隆寺の謎を解く』産経新聞、2006年7月。
- 佐藤弘夫 鼎談「日本人にとって悪とは何か」『シリーズ思想の身体 悪の巻』春秋社、2006年11月。
- 佐藤弘夫「神はコンピュータに宿るか」『在家仏教』657号、2007年。
- 佐藤弘夫「名僧列伝 円仁」『仏教新発見 中尊寺』朝日新聞社、2007年。
- 佐藤弘夫「墓の行方」『明日の友』170号、2008年。
- 佐藤弘夫「起請文の神々」『鍔仙』564号、2008年。

- 佐藤弘夫「シンポジウム「中世における統合の契機とその構造」を聞いて」『日本中世のNATION』岩田書院、2008年。
- 片岡龍 書評／四方田犬彦『ソウルの風景』『STESSA』5、2005年。
- 片岡龍 書評／兪弘濬『私の文化遺産踏査記』『STESSA』6、2006年。
- 片岡龍「近世日本思想における認識枠組みの転換」『東アジアにおける国際秩序と交流の歴史的研究』№4、2006年。
- 片岡龍 書評／高橋文博『近世の死生観—徳川前期儒教と仏教—』『図書新聞』2792号、2006年。
- 片岡龍「荻生徂徠」大庭健主編『現代倫理学事典』弘文堂、2006年12月。
- 片岡龍「人文学における個人研究と共同研究」『日本中国学会便り』10、2006年。
- 片岡龍 書評／楊国荣『儒学的思惟与辨』〈韓国語〉『儒教文化研究』第11輯、2007年。
- 片岡龍 書評／楊国荣『儒学的思惟与辨』〈中国語〉『儒教文化研究（国際版）』第7輯、2007年。
- 片岡龍「日本と韓国の間の普遍性構築をめざして」『東洋経済日報』2007年9月28日号
- 片岡龍「下降の時代に思想史を」『東京新聞』・『中日新聞』2008年3月31日
- 片岡龍 対談／「思想の漢文脈と和文脈」『大航海』67、2008年。
- 大川真「書評 黒住真著『近世日本社会と儒教』」『日本史研究』513号、日本史研究会、2005年5月、56～61頁。
- 大川真 佐藤弘夫編『概説 日本思想史』年表（近世部）担当執筆（ミネルヴァ書房、2005年4月）。
- 大川真 荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』「家永三郎」・「もっと知りたい人のために 近世」の項執筆（新書館、2008年3月、188-189,200-201頁）
- 大川真「「知」の伝達をめぐる全体討論総括—反時代的精神を懐中しながら」『年報日本思想史』7号、日本思想史研究会、2008年3月。
- 桐原健真「書評 川口浩編著『日本の経済思想世界——「十九世紀」の企業者・政策者・知識人』」、渋沢研究会『渋沢研究』18号、2006年、79～85頁。
- 桐原健真「書評 高橋裕文著『幕末水戸藩と民衆運動——尊王攘夷運動と世直し』」、地方史研究協議会『地方史研究』56巻5号、2006年、114～115頁。

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

- Hiroo Sato “Buddhas and Kami in Japan” International Conference on Arts and Humanities 2004, Hawaii Univ. USA, 2004年.
- Hiroo Sato “Kami and Vengeful Ghosts :Two Causes of Disease in Early Japan” Tohoku-Cambridge Forum, Cambridge Univ. 英国、2004年6月.
- Hiroo Sato “The Cosmology of Buddhas and Kami in Medieval Japan” 国際シンポジウム・Buddhism In (and Out of) Place, UCLA, USA, 2004年10月.
- 佐藤弘夫「日本中世のコスモロジーと道教の神々」国際シンポジウム・道教と日本文化、浙江大学、中国、2004年.
- Hiroo Sato “The Changing Figure of Traditional Deities in Early Japan” International Conference on Arts and Humanities 2005、Hawaii Univ. USA,2005年.
- Hiroo Sato “The Cosmology of Buddhas and Kami : A reconsideration of kami-Buddhist malgamation paradigm” International Conference on Arts and Humanities 2006,Hawaii Univ. USA, 2006年.
- Hiroo Sato “Mononoke and Kami : The Causes of Illness in Early Japan” International Conference on Arts and Humanities 2007, Hawaii Univ. USA, 2007年.
- 佐藤弘夫「遣唐使像の変容」国際シンポジウム・東アジア文化交流の源流、浙江工商大学、2007年9月.
- Hiroo Sato “Buddhas and Kami in Japan” International Conference on Arts and Humanities2008, USA, 2008年1月.
- Hiroo Sato “Transition of View of Mountains in Japan” 国際シンポジウム・Shugendo: The History and Culture of a Japanese Religion, USA, 2008年4月.
- 佐藤弘夫「日本における天台宗の地方伝播」国際シンポジウム・海を渡る天台文化、中国、2008年5月
- Hiroo Sato “The Emergence of Shinkoku(Gods’ Land) Ideology” 国際シンポジウム : Religiou ‘Nativism’ in Buddhist Societies, German, 2008年9月.
- Hiroo Sato “Tenno Ideology and Discourse” EAJS Conference 2008, Italy,2008年9月.
- Hiroo Sato “The destination of the Dead” International Conference on Arts and Humanities2009, USA, 2009年1月.
- 片岡龍「明末清初の思想と日本儒学について」韓国、南冥学研究所 2004年第二次学術大会 慶尚大学校南冥学館南冥ホール、2004年11月5日.
- 片岡龍「十七世紀 東亜細亜 儒学の潮流」韓国、第2回江華陽明学派国際学術大会韓国陽明学会「霞谷と江華陽明学派」安陽大学校（江華キャンパス）2005年10月29日.
- 片岡龍「近世日本思想における認識枠組みの転換」京都大学COE「東アジアにおける国際秩序と交流の歴史的研究」主催国際シンポジウム「17世紀より19世紀に至る東アジア各国の学術位相」京都大学100周年時計台記念館会議室、2006年1月.
- 片岡龍「儒教に対する使命感と諦念」日韓共同シンポジウム：18－19世紀東

- アジア思想空間の再発見—丁茶山の時代の韓国・日本学術史—、東北大学マルチメディアホール教育研究棟6F、2007. 8. 31
- 片岡龍「伊藤仁齋における『孟子』」第5回日本漢学国際学術検討会、国立台湾大学文学院演講庁、2008年3月29日
- 片岡龍「朱子学派・古学派の知的教養としての側面」国際儒教文化研究論壇創立記念学術検討会招待発表、成均館大学600周年記念館、2008. 5. 24
- 片岡龍「荻生徂徠—「独学」の魅力—」成均館大学東アジア学術院招待発表、成均館大学東アジア学術院、2008. 6. 20
- 片岡龍「朱子学からの転換」韓国政治思想学会—日本政治思想学会共同主催第7回韓・日国際学術会議、高麗大学100周年記念館国際遠隔会議室、2008. 6. 21
- 片岡龍「目に見えないものへの想像力」韓・日思想史共同シンポジウム、韓国学術振興院第一層会議室、2008・8・12
- KIRIHARA Kenshin, *Calm and Storm in the Pacific: International Aid and Trans-Pacific Relations 1900-1931*、プリンストン大学東アジア研究所・財団法人渋沢栄一記念財団主催 “Trans-Pacific Relations: East Asia and the United States in the 19th and Early 20th Centuries”、2006年9月8日～10日、アメリカ合衆国・プリンストン大学.
- KIRIHARA Kenshin, *The Miniature of a New World As a Model of Modernization*、張謇研究センター主催「第4回 張謇国際学術研討会」、2006年11月25～28日、中華人民共和国・南通市文峰飯店.
- 桐原健真「「帝国」の誕生——19世紀日本における国際社会認識」、台湾中央研究院・人文社会科学研究中心・亜太区域研究專題中心主催「東亜世界中日本社会的特徴国際研討会」、2007年03月15～16日、中華民国（台湾）・台北市中央研究院.

(2) 国内学会

- 佐藤弘夫「神仏習合と神祇不拝」日本史研究会大会招待発表、仏教大学、2004年10月9日.
- 佐藤弘夫「天皇の宗教的権威・再考」奈良女子大COE講演会、奈良女子大学、2005年5月15日.
- 佐藤弘夫「信仰と解脱」印度学宗教学会大会基調講演、2005年5月28日.
- 佐藤弘夫「奥羽の霊場論」東北中世考古学会宮城大会基調講演、東北歴史博物館講堂、2005年9月25日.
- 佐藤弘夫「専修念仏と神祇不拝—なぜ念仏は弾圧されたのか」真宗教学学会高田大会記念講演、真宗大谷派高田別院、2006年5月.

- 佐藤弘夫「日本宗教の多面的・多角的解明に向けて—仏教史の立場から」日本宗
教文化史学会10周年記念シンポジウム招待発表、京大会館、2006年12月。
- 片岡龍「朝鮮における音声言語と文字表記」教育史学会（第49回大会）「漢字文
化圏の比較＜教育メディア史＞コロキウム」東北大学文学部 2005年10
月10日。
- 片岡龍「いまなぜ日本思想史か？」ジュンク堂書店池袋本店「JUNKU 連続トー
クセッション」ジュンク堂書店池袋本店4Fカフェ、2008 7. 3
- 大川真「叫ばれる「正名」—新井白石後の日本国家論—」日本思想史学会、2005
年10月。
- 大川真「新井白石の国王復号説の思想史的意義」研究プロジェクト「19世紀東
アジアにおける国際秩序観の比較研究」、研究代表吉田忠、国際高等研究所、
2006年8月)
- 大川真「後期水戸学研究」日本思想史学会、2006年10月。
- 大川真「徳川政権の支配正当化論の諸相—儒学者の場合—」科学研究補助金 基
盤研究B「東照宮祭祀の基盤・確立・展開」・研究代表者曾根原理、研究報
告会、2008年5月。
- 桐原健真「『帝国』の成立——幕末維新时期における華夷意識の転回」、吉田忠研究
代表「19世紀東アジアの国際秩序観の比較研究」木津川市・国際高等研究所、
2006年9月。
- 桐原健真「水戸学の時代精神——あらたな会沢正志斎像の模索」茨城大学人文学
部主催「地域連携シンポジウム 茨城の時代精神」茨城大学、2006年11月。
- 桐原健真「『漢土人の翹楚』——魏源と吉田松陰」、吉田忠研究代表「19世紀東ア
ジアの国際秩序観の比較研究」木津川市・国際高等研究所、2006年8月。
- 桐原健真「九段の母——近代における魂のゆくえ」、タナトロジー研究会、仙
台・岡部医院、2006年04月22日。
- 桐原健真「魂を留める——吉田松陰の場合」、日本宗教学会 2006年度大会「パネ
ル：どう死ぬか——現場から考える「宗教」研究」、仙台・東北大学、2006
年09月18日。
- 桐原健真「世界史的視座から見たる大津港」、水戸哲学会「春期合宿」、2007年03
月03～04日、北茨城市・大津港。
- 桐原健真「『帝国』日本と東アジア——幕末維新时期における国際秩序認識」、明治
維新史学会例会、東京・明治大学、2007年5月26日。
- 桐原健真「直線と円環——日本思想における生死」、タナトロジー研究会、仙台
市・岡部医院、2007年06月15日。
- 桐原健真「『天下』と『五世界』——幕末期における自他認識の転回」、練馬区・
武蔵大学、全国横井小楠研究会大会、2007年09月09日

桐原健真「直線と円環——吉田松陰の死生」、日本倫理学会 2007 年度大会、新潟市・新潟大学、2007 年 10 月 13 日。

桐原健真「『帝国』日本の誕生」、日本思想史学会 2007 年度大会、長崎市・長崎大学、2007 年 10 月 21 日。

桐原健真「学理と真理——河口慧海における求法」、日本学術振興会科学研究費・基盤（C）「近代日本の仏教者における中国体験・インド体験」（小川原正道代表）、千代田区・二松学舎大学、2008 年 01 月 26 日。

2 教員の受賞歴（2004～2008年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2004～2008年度）

（1）科学研究費補助金

佐藤弘夫（研究代表者）基盤研究（C）「起請文を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2005～2007 年度、350 万円

佐藤弘夫（研究代表者）基盤研究（C）「板碑を素材とする思想史研究の新たな領域と方法の開拓」2008～2010 年度、388 万円

佐藤弘夫（研究分担者）基盤研究（A）（研究代表者中村生雄）「「供養の文化」の比較研究を通して見る「死」の表象の形成過程とその現代的変容」2007 年度～2009 年度

片岡龍（研究代表者）萌芽研究「「図説」の分析・比較を中心とした近世思想史研究の領域の拡大と深化」2006～2008 年度、280 万円

大川真（研究分担者）基盤研究（B）「東照宮祭祀の基盤・確立・展開」（研究代表者曾根原理）

桐原健真（研究分担者）基盤（C）「近代日本の仏教者における中国体験・インド体験」（小川原正道代表）、2006 年度～。

桐原健真（研究代表者）研究成果データベース「日本思想史文献データベース検索」、2006 年度。

（2）その他

片岡龍 研究科長裁量経費「日本思想と韓国思想の新たな学術史叙述のための共有基盤構築を目的とする国際シンポジウムの開催と論文集の刊行」2007 年、30 万円

片岡龍 サントリー文化財団「18 - 19C 日本・韓国思想における近代の始原・古層（独自の時間・空間認識）の分析を通じて、日本・韓国の新たな学術基盤の共有をめざす国際的・学際的研究」2007 年、100 万円

片岡龍 日韓文化交流基金「日本・韓国の新たな学術基盤の共有を目的とする国

- 際シンポジウム（18－19Cの日本・韓国の学問・政治・宗教・科学）の開催」2007年、31.8万円
- 片岡龍 インテリジェント・コスモス文化財団「国際学会：18－19Cの日本・韓国の学問・政治・宗教・科学」2007年、10万円
- 桐原健真 渋沢栄一記念財団研究部「渋沢国際儒教研究」（陶徳民代表）、2004年4月より現在に至る。
- 桐原健真 2005年度東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム「医療現場との対話による「臨床死生学」の創生——地域の自然と文化に支えられた「死」の意味」（竹之内裕文代表・代表者転出のため成果報告時に代表代行）2005年10月～2007年3月。
- 桐原健真 2007年度財団法人笹川医学医療研究財団在宅ホスピス緩和ケア研究助成「看取る文化の再構築——在宅ホスピスのための死生観教育プログラムの開発」（竹之内裕文代表）、2007年4月より現在に至る。
- 桐原健真 ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成「在宅ターミナルケアを阻害する社会的・文化的因子の構造解析」（竹之内裕文代表）2007年9月採択。

V 教員による社会貢献（2004～2008年度）

佐藤弘夫

COE分野別評価部会委員(2004年度)

日本学術会議連携会員（2006年8月～2008年9月）

講演「霊場の形成と納骨信仰」岐阜県高山市真宗大谷派高山別院、2004年8月。

講演「神と仏の精神史」岐阜県高山市飛騨学場、2004年8月。

講演「中世の神々と親鸞聖人」京都市東本願寺、2004年11月。

講演「中世人の夢—親鸞聖人と明恵上人」京都市高倉会館、2005年3月。

講座「みちのくの霊場と慈覚大師伝説」NHK文化センター「新・みちのく古寺巡礼」、2005年度。

講演「みちのくの霊場—慈覚大師の足跡を尋ねて」東北大学文学部有備館講座、2005年7月。

講演「中世の神々と親鸞聖人」浄土真宗神奈川地区研修会、2005年12月。

講演「霊場の形成と霊験仏信仰」金沢文庫専門講座「霊験仏の世界」、2006年11月。

講演「専修念仏と神祇不拝」本願寺福岡会館、2006年12月。

講座「日本仏教と死—葬儀の歴史と死生観の変容」国際仏教学大学院大学、2007年5月。

講演「専修念仏弾圧の歴史的背景」大谷大学親鸞聖人誕生会記念講演、2007年6月。

講演「死者のゆくえ-日本における死生観の変容」岩手大学図書館、2007年6月.
講演「専修念仏弾圧の歴史的背景」信道講座、真宗大谷派名古屋別院、2008年2月.
講演「瑞巖寺」シンポジウム：松島湾の文化遺産、塩竈市民交流センター、2008年7月.
講演「墓から読む歴史」文学研究科斎理屋敷講座、2008年10月.
講演「成仏する草木―聖なる植物の系譜」東北大学植物園公開市民講座、植物園、2008年10月.

片岡龍

講演「蘆東山（1696－1776）とその時代」東北大学文学部有備館講座、2007年11月

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2004～2008年度）

佐藤弘夫

日本思想史学会評議員（2001～2005年度）・大会委員長（2004～2005年度）

日本文芸研究会委員（2001～2005年度）

東北史学会評議員（2001～2005年度）

VII 教員の教育活動（2008年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

佐藤弘夫

2学期 日本思想史特論 日本人の死生観

片岡龍

1学期 日本思想史特論 学問・教育の形

2学期 日本思想史特論 歴史の思想

小路田泰直

集中講義 日本思想史特論VI 人はなぜ、いかに王を創出するか、天皇主権の誕生までを見透す

佐藤弘夫・片岡龍

1学期 日本思想史研究演習 日本思想史の諸問題1

2学期 日本思想史研究演習 日本思想史の諸問題2

2 学部授業担当

佐藤弘夫

- 4 セメスター 日本思想史基礎講読 古代・中世思想史関連文献講読
- 6 セメスター 日本思想史各論 日本人の死生観

片岡龍

- 3 セメスター 日本思想史基礎講読
- 4 セメスター 日本思想史概論 日本思想史研究入門
- 5 セメスター 日本思想史各論 学問・教育の形
- 6 セメスター 日本思想史各論 歴史の思想

佐藤弘夫・片岡龍

- 5 セメスター 日本思想史演習 日本思想史の諸問題 1
- 6 セメスター 日本思想史演習 日本思想史の諸問題 2

3 共通科目・全学科目授業担当

片岡龍

- 1 セメスター 人文社会科学総論

(2) 他大学への出講 (2004～2008年度)

- 佐藤弘夫 立命館大学 2004 年度
- 佐藤弘夫 奈良女子大学 2006 年度
- 片岡龍 韓国・成均館大学 2008 年度
- 片岡龍 台湾大学 2008 年度
- 片岡龍 北海道大学 2008 年度
- 大川真 米沢女子短期大学 2008 年度